



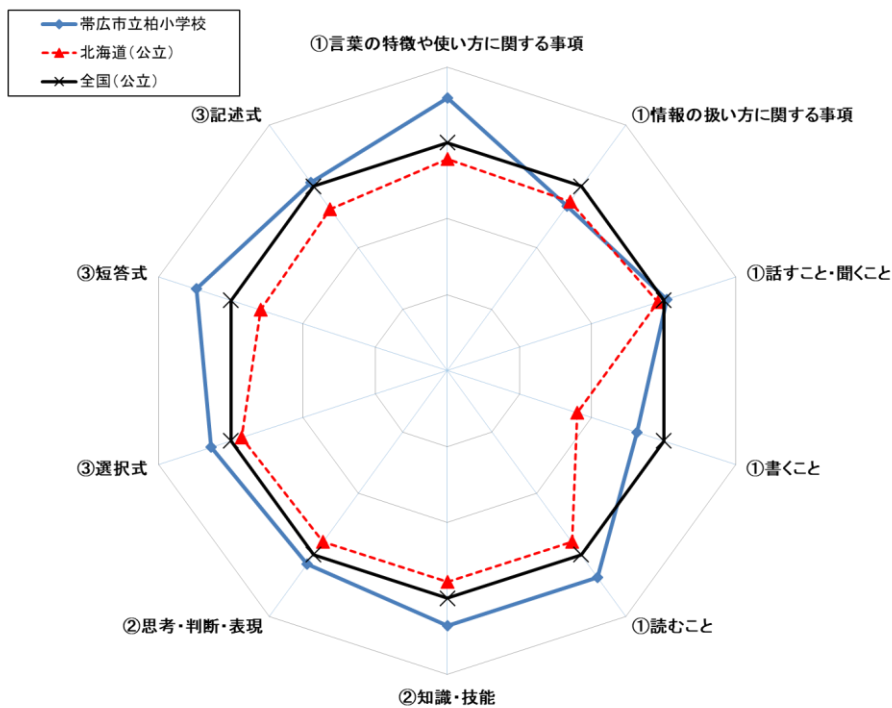
強い心と体でねばり強くやりぬく子ども
確かな知識でよく考える子ども
明るくきまりよい子ども
心豊かで思いやりのある子ども

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果より

『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる』『そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』ことを目的として小学校第6学年で毎年行われている「全国学力・学習状況調査」が、今年度は令和5年4月19日(水)に全国一斉に行われました。本校児童の学力の様子を分析とともにお伝え致します。

尚、グラフは全国平均(黒)を100とした場合の比率(%)で示していて青いグラフが本校です。

柏っ子の学力について (国語)

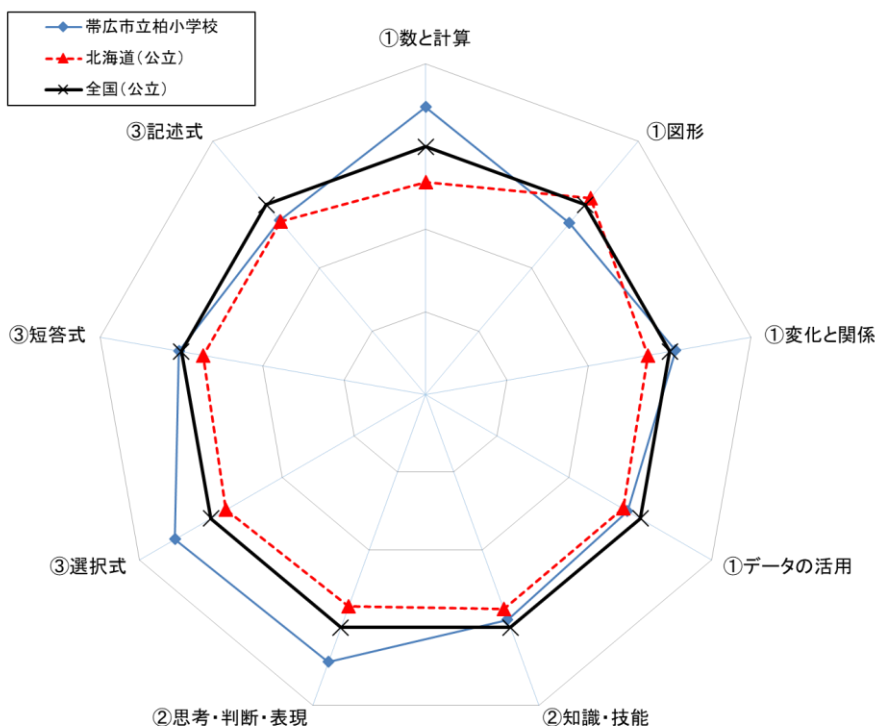


<国語の結果と分析>

国語は全道・全国平均を上回りました。

- 空欄のままにせず最後までねばり強く問題に向き合っている児童の割合が高いことがわかりました。
- 選択問題での正答率が高く、他の選択肢にまどわされずに選ぶことができていました。
- 記述式での解答は、すべての条件を満たして解答することを苦手とする傾向がありました。普段の学習でも、複数の条件を満たして解答できるようにしていく必要があります。
- 正答率が低い問題は記述式の問題であり、引き続き「書くこと」の指導に力を入れていきます。
- 「意外」を「以外」と書くなど、同音異義語の漢字の誤答が多くみられました。

柏っ子の学力について（算数）



<算数の結果と分析>

算数の結果は全道・全国平均を上回りました。

- 国語と同様に解答の空欄が少なく、ねばり強く問題に向き合う児童の割合が高いことがわかりました。
- 基礎的な計算問題の正答率が高く、普段から基礎・基本の定着に向けて学習に取り組んでいることがわかりました。
- 正三角形の性質についての理解が求められる問題と、2つの三角形の面積の大きさを比較してその理由を言葉や数を用いて説明する問題など、図形領域の問題の正答率が低く課題がありました。
- 椅子4脚の重さが7kgのとき、48脚の重さを求めるために、比例関係にあることを用いて解くなど、日常生活で数量関係を応用するような問題で正答率が低い傾向がみられました。

児童質問紙の回答から

<児童質問紙の結果と分析>

- 国語の学習が好きな児童が多く、物語文の描写に着目したり、自分が書いた文のよいところに気付いたりしています。
- 英語の勉強が好きな児童が多く、ICTを用いて英語に関わる機会が多いことがわかりました。
- 家庭では、計画を立てて1時間以上勉強をしている児童が多いことがわかりました。
- 国語で、相手との関係を意識した言葉のはたらきを学んだり、立場や意見の違いを意識して話し合ったりすることに苦手意識があることから、普段の授業で話し合い活動を多く取り入れていきたいです。
- 算数の勉強に苦手意識をもっている児童が多いことがわかりました。少数指導や習熟度別指導などの取組や、授業の振り返りに力をいれていく必要があると考えます。
- 学校に行くのが楽しく、人が困っている時は進んで助けていると答えた児童が少ないことがわかりました。異学年で交流できる行事等、様々な経験の中で楽しさを感じることができるようしていきたいと考えます。
- 読書が好きだと答えた児童が少なかったことから、読書に親しみ習慣化するための取組を強化していきます。

学校と家庭の連携で学力アップ！～机に向かう習慣を～

全国学力・学習状況調査の結果を受けて、学校と家庭が両輪となって、次のことに意識して取り組み、児童の学力向上につなげていきたいと考えております。保護者の皆様もご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

学校では 校内研修を中心に授業改善を図っています！



①教師の肯定的な言葉かけから生まれる学級風土づくり

「受け止める」「反応する」「ほめる」を重視し、「学級の中で認め合う姿」「安心して、発表できる学級」づくりに重点を置いています。それにより児童が主体的に学ぶことができ、意欲的・対話的に問題解決に向かうことができる取組を進めています。

②自らの学びを見通し、自らの探求の姿を振り返る活動

児童一人一人が「何を学ぶ」「どうやって学ぶ」かを把握し見通すことで、主体的な学びに繋がっています。学びをしっかりと確認するために、振り返りに力を入れています。

①わかったこと、できるようになったこと②自分の勉強の姿、成長したこと、喜び

③これからに向けて、目標とすること④友達と学んで気付いたこと⑤友達のよいところ

③「見方・考え方」を働かせ児童自らが問題を発見し、解決できるような問題、課題の設定

児童が「やりたい」という意欲をもち学習に取り組み、「どうしてだろう」「調べてみたい」「解決したい」と意欲的に取り組めるような課題の提示を行っています。

④自己の考えを深め、広げるために児童同士が協働する活動

一人では解決できない課題であってもペアやグループであれば解決へと向かうこともあります。考えや知識を伝え合う学習を行っています。その際には自分の立場を明確にして議論する活動を取り入れています。

⑤そのほかには

- ・チャレンジテスト等を分析し苦手な傾向がある問題を解き直します。
- ・少人数指導や習熟度別指導などで複数の教師で個に応じた授業を行います。
- ・朝学習や家庭学習を利用して漢字や計算の反復練習を行います。
- ・一人一台端末を活用して個別最適な学習を行います。
- ・児童のよい行動をたくさんほめていきます。

家庭では



①机に向かう時間を確保しましょう。

- ・「10分間×学年+宿題」を目標に家庭学習に取り組みましょう。
- ・時間帯を決めて毎日継続していきましょう。
- ・自分で計画を立てて取り組むことが大切です。
(家庭での言葉掛けや励ましをお願い致します)

②テレビやゲームの時間を決めましょう。

- ・自分の生活を振り返り、視聴時間を再確認しましょう。
- ・テレビやゲームの時間を減らして、計画的に家庭学習に取り組みましょう。
(ストップ・ザ・見放題)

③心がふれあう時間を確保しましょう。

- ・1日1回は学校の話をするなど、子どもの気持ちに寄り添う時間を確保していきましょう。
- ・子どもの頑張りやよいところを認め、どんどんほめましょう。
(子どもはほめられることで伸びていきます)